

秋田県 高P連会報



No.118

発行／秋田県高等学校PTA連合会 事務局／秋田市山王中島町1-1 秋田県生涯学習センター5F TEL018(863)6681 印刷／秋田中央印刷株式会社



秋田駒ヶ岳 (写真:長澤善徳氏)

何のために学ぶのか

秋田県高等学校PTA連合会

会長 佐野 元彦



先ごろ、中央教育審議会から次期学習指導要領の原案が示されました。全国高P連会長として「教育課程高校部会」や「高大接続システム改革会議」のメンバーに加えていただき、今回の原案作成に僅かながら関与した一人として感慨深いものがあります。

「生きる力」の源泉である「真の学力」(十分な知識と技能を基に、思考力・判断力・表現力を磨き、主体性をもって多様な人々と協働する力)を身につけるにあたり、これまで中心だった「何を学ぶか」に加え、「どのように学ぶか」「何ができるようになるのか」の視点を追加し、生徒が主体的・能動的に授業に参加する「アクティブ・ラーニング」の手法を取り入れることにしています。また、「評価」についても、評価すること自体が目的ではなく、生徒一人一人の改善・向上に活かすために行うものであり、知識のみならず「真の学力」を多面的に評価することとしています。

しかしながら、忘れてはならないことは、「何のために学

ぶのか」という考え方がしっかりしていてこそ、学びに対して主体的・能動的になれるということではないでしょうか。職業選択・進路選択という狭い意味ではなく、もっと広く深い「生き方」、自分はどのような役割を通じて周りの人たちや社会のお役に立てるのかを考える「キャリア観」の醸成が必須だろうと考えます。

キャリア観を育てていくためには、教室での授業や部活動など学校内で得られる学びのみならず、家庭における親や家族との触れ合いから得る学び、地域での様々な活動を通して得られる学びが重要になってきます。まさに、学校・家庭・地域を結ぶ役割を果たすという私たちPTAの出番です。

最近では、P(親)・T(教職員)にC(Community:地域)を加えて「PTCA」と称する学校も増えてきました。地域が学校や生徒を支え、学校や生徒が地域の為に貢献するという「WIN-WIN」の関係づくりを目指そうというものです。人口減少・少子高齢化が全国一のスピードで進む我が秋田県こそ、教育を地域創生の核にしようという認識を共有し、学校・生徒を地域総がかりで支えることが大切でありましょう。きっと、そのように支えてもらった生徒たちは、ふるさとへの強い愛着と誇りを胸に刻んだ確固たるキャリア観をもって、ふるさと秋田の創生を成し遂げてくれるものと信じてやみません。

秋田県高等学校 PTA連合会

平成28年度 定時総会

平成28年度高P連定時総会は、6月1日（水）ホテルメトロポリタン秋田にて開催されました。県内の高校、支援学校57校より193名の出席がありました。

佐野元彦会長は挨拶の中で、『『過去の延長上に未来はない』と言われる今、高大接続、学習指導要領改訂、選挙年齢引き下げにともなう主権者教育など、高校教育がクローズアップされてきている。高P連は、これまで以上に各学校PTA活動の一助となるべく取り組みに当たっていく。人口減や少子化が進む中、将来を担う子どもを地域の財産として育てていくことが大切。先生と保護者がタッグを組み、地域を巻き込みながら子どもをたくましく健全に育てていこう』と述べられました。続いて、ご来賓の県教育庁鎌田信教育次長、校長協会安田浩幸会長からご祝辞をいただきました。

この後、佐野会長が各学校PTA活動や高P連での活動に貢献され功績のあった104名を代表して中嶋日吉能代高校前PTA会長に感謝状を贈呈。また、平成27年度広報誌コンクールの表彰も行われ、最優秀賞の秋田和洋女子高



校PTA以下15校PTAの栄誉を讃えました。受賞者を代表して橘正幸大曲農業高校前PTA会長が謝辞を述べられました。

議事では、鈴木雄大秋田南高校PTA会長が議長、伊藤昌文横手城南高校PTA会長が副議長に選出され、決算・会務報告、予算案・事業案及び、新役員などを審議。すべて承認可決されました。例年事務局からの簡単な報告で終わっていた会務報告では各委員長より丁寧な説明がありました。活動の様子が具体的にわかった、と参加者の声がありました。

総会終了後、ご来賓の方々や県高P連顧問、会員など120名が参加し、「受章者を祝う会」が行われ、受章された皆様のご労苦を慰労するとともに、各学校PTAや地域、会員間で交流や情報交換など、有意義な時間を過ごしました。



祝 辞（要旨）

秋田県教育庁
教育次長 鎌田 信

本県では中学校卒業生数が、今後10年で2,000人以上の減少が見込まれる中、高等学校教育は大きな転機を迎えようとしています。その変化の激しい社会をたくましく生き抜くためには、社会的・職業的自立に必要な力を身に付けることや積極的に社会を支え課題に取り組もうとする意識を高めていくことが必要となってきました。これらを踏まえ、本県高等学校教育の新しい方向性を示すとともに、教育環境の一層の充実を図ることを目的に、今年度「第七次秋田県高等学校総合整備計画」を策定し4月にスタートさせたとです。県教育委員会では、平成37年度までの10年間、本計画を力強く着実に推進してまいりたいと考えておりますので、皆様の一層の御理解と御協力をお願いいたします。

高校での3年間は将来の方向性を決める大事な時期で

もあります。義務教育で身に付けた知識や技能を基に更に専門的な力を習得するのはもちろん、考える力や判断する力を培わなければなりません。自己と家庭、家庭と社会の繋がりを大切にし、積極的に社会の変化に対応できる力を身に付けることが求められています。そのために、学校と家庭そして地域が緊密に連携共同することが必要であり、一人でも多くの大人が子どもたちに目を向け、心を配ることが大切であると考えています。学校、家庭、地域をつなぐ中心的な存在であるPTAの役割も、今後ますます大きくなっていくものと思われます。

これまで、本県においては、各校や各地区のPTAを拠点とし、教育環境整備や文化活動、健全育成等に関する取組が積極的に行われてきました。多くの地域住民を巻き込んだ活動は、地域の連帯意識や教育力向上の気運醸成の流れを生むものと考えますので、貴連合会におかれまして、引き続き活発な活動が展開されますことを御期待申し上げます。

皆様方には、子どもたちの健やかな成長と、地域ぐるみで子どもを育む体制の充実のため、引き続き御協力と御支援をお願い申し上げます。

祝 辞 (要旨)

秋田県高等学校長協会

会長 安田 浩幸

(秋田高校長)



県教育委員会が作成した「秋田わか杉七つのはぐくみ」の中の、“早寝 早起き 朝ご飯 生活リズムは全ての基本”、“問題解決 子どもが主体 授業の続きは家庭で学習”、“学校や地域の話で語り合い 将来の夢 家庭でえがく”をもとにお話します。

文部科学省の調査で「高校生の47%が、深夜0時以降に就寝している」「高校生では、3人に1人が睡眠不足と感じている」などの結果が示されました。各家庭で早寝、早起き、朝ご飯を実践していただきたいと思います。また、各高校では生徒の主体的な学びへ授業改善を進めており、それがもっと勉強したいという動機付けになって、生徒の家庭学習時間の増加につながるよう今後も指導に当たっていきます。そして、学校での出来事について御家庭でお子さんと沢山お話してください。ゆっくりと話ができるのは今しかありません。

現在の教育改革で一番影響を受けるのが高等学校だと言われています。大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の導入や学習指導要領の改訂、そして18歳選挙権など、変化の激しい時代であっても、生徒の健全育成や進路実現に向けて、各校とも特色を出しながら、活性化を図っていききたいと考えています。

受賞者謝辞

大曲農業高校

前PTA会長 橘 正幸



平成28年度定時総会におきまして、感謝状を受賞できましたことは、大きな喜びであります。改めて、ご指導を頂きました校長先生始め教職員の方々、一緒に活動して頂いたPTA会員の皆様に、心から感謝を申し上げます。

顧みますと、子どもの高校入学と同時に役員を仰せつかり、生徒達に寄り添う心を持って母校「大曲農業高校」のPTA活動を展開することが出来ました。この三年間という月日は、とても幸せな時間でありました。決して優等生な会長ではなく、多くの方々にご難儀をかけてしまったことは、反省をしているところです。

また、27年度は県高P連の理事として充実した活動が出来たこと、更に東北高P連青森大会で発表させて頂いたことも、生涯忘れられない貴重な経験となりました。

本日の受賞を機に、これからは「地域のサポーター」として、高校生の夢の実現のために微力ではありますが、応援し続けていくことをお誓い致します。

結びに各校PTAならびに、県高P連のご発展、ご参会の皆様のご健勝、そしてそれぞれが「行動人」となって力強く前進されますことを懇願し、謝辞と致します。



受賞の皆さん



感謝状代表受賞
中嶋日吉 能代高校前PTA会長



広報紙コンクール代表受賞
松江久人 秋田和洋女子高校PTA会長

平成28年度 秋田県高等学校PTA連合会

役員一覧

役 職	学 校 名	氏 名
会 長	秋 田 田 南	佐 野 元 彦
副会長	秋 田 能 代 工 業	渡 石 嶋 勝 比 古
	秋 田 北 沢	木 村 昌 臣 永 平
	横 手	○ 山 信 田 勢 津 子
	秋 田 能 代 松 田	* 安 田 浩 幸
監 事	仁 賀 保	佐 藤 幸 樹 守
	大 曲 農 業 高 校	佐 々 木 明 明
理 事	花 館 鳳 輪	児 玉 政 秀 明
	大 館 桂 桜	神 成 幸 忠 子
	秋 田 北 鷹	成 田 淳 隆
	大 館 鳳 鳴	* 立 石 林 純
	能 代 工 業	本 庄 徹 充
	能 代 工 業	* 山 田 浩 暮 美
	五 城 目	武 田 榮 治
	秋 田 工 業	桑 原 繁
	秋 田 明 徳 館	安 宅

役 職	学 校 名	氏 名
理 事	秋 田 中 央 附 属	岩 谷 淳 志
	美 大 附 属	伊 藤 誠 子
	秋 田 北 北 荘	* 佐 々 木 晃 悟 堂
	本 矢	鷹 庄 司 嘉 政 子
	西 本	島 目 浅 野 敏 一
	西 本	* 佐 藤 藤 子 吉 実
	西 角	仙 北 館 齊 柏 谷 真 一
	六 大 曲 農 業 高 校	松 本 久 美 一
	横 手 城 南 成	* 伊 東 金 昌 文
	平 横	吉 成 藤 正 光
	湯 沢 翔 北	* 古 関 秀 行
	雄 勝	富 高 谷 俊 一 譲
	秋 田 北 鷹	○ 庄 司 美 浦 子
	男 鹿 工 業	○ 島 山 千 夏 子
事務局長		澤 井 孝 子
事務局員		淡 路 ひろ子

* 校長協会代表 ○ 母親委員会代表

第65回東北地区高等学校PTA連合会仙台大会

「復興から創生へ 集え！伊達の地に」 ～子どもたちの夢を応援するPTA活動～

平成28年7月8日(金) 仙台サンプラザ

震災から5年。復興途中である伊達の地仙台において、オープニングの宮城県農業高校復興太鼓で参加者1,400名の心が一つとなった第65回東北地区高等学校PTA連合会仙台大会が、7月8日(金)仙台サンプラザを会場に開催されました。大会テーマは、「復興から創生へ 集え！伊達の地に ～子どもたちの夢を応援するPTA活動～」。

山野公寛大会会長が、「普通であることがどれだけ幸せか」と生徒の作文を紹介されました。震災当時の不安、混乱そして今なお、普通の生活が出来ない状態にあることを認識させられました。

基調講演は、宮城教育大学の田端健人教授による「地方創生の主役となる子どもを守り育てるために」と題しての講演でした。子どもたちがいかに震災から目を背けず、復興に向けて自発的に取り組んできたのかを、写真、子どもたちのインタビューを交えたスライドで説明。そこには「指示待ち人間」「聞いてないから動かないと言われる子ども」は存在しません。きっかけがあれば子どもたちは考え、行動します。子どもの成長を止めてしまっているのはむしろ大人なのでは、と考えさせられました。

研究協議では本県より秋田高校PTA佐藤裕之会長が「つなげ!! 親の気持ち、思い。～パネルディスカッションを通じた情報伝承～」と題して秋田高校におけるPTA活動の様子を発表されました。大会テーマに合致する発表は、各校PTA活動の参考となる内容でした。

「子どもたちの夢を応援するPTA活動」をもとに開催された仙台大会。夢に向け子どもが自発的に行動できるように、大人がしっかりとサポートをしていこうと気持ちを新たにすばらしい大会でした。

調査広報委員 鎌田 正夫(男鹿海洋高校)



復興太鼓(宮城県農業高校)



東北高P連仙台大会での 研究協議の発表を終えて

秋田高校 PTA会長 佐藤 裕之

高校に限らず、学校というものが「今」の在学生・教師・保護者・地域だけでなく、卒業生やその親にも支えられる存在であるならば、そうした親たちの「思い」が次世代にも継承される仕組みがあつて当然なのですが、実例は意外に少ないようです。

当校の取り組みの紹介が、「思い」の共有は「横」のみならず「縦」も大切であることに気づいて頂く契機になったとすれば、発表者としてこの上ない喜びです。

ありがとうございました。

***** 発表要旨 *****

秋田高校は「文武両道」として学習だけではなく、課外活動に熱心に取り組むことを奨励している。秋田高校では個人レベルでの「文武両道」の実現を目指している。しかし、学習と課外活動の両立は簡単なことではなく、どのように両者の均衡を図っていくのかという悩みが果てることではない。

昭和46年の着装の自由化に代表される「自主自律」の伝統が秋田高校には息づいている。われわれPTAが生徒の夢の応援のため次代に何かを伝えていくべきであると考えた。そこでPTA総会の場を借り、現会員を前に、会長がコーディネーターを務め旧会員と「子どもの進路実現を目指して～親としての関わり方」というテーマで、昨年度第1回目のパネルディスカッションを行った。

今年度も引き続きパネルディスカッションを行った。「入学直後でよくわからない、イメージもできないところでしたが、卒業生の親御さんの話を伺い、親子ともががんばった様子や今後のことがとても参考になりました」など総じて好意的な評価をいただいた。こうして親の気持ちをつないでいくことが、子どもの夢の実現の応援になればいいと思っている。

祝 東北地区 高P連表彰



感謝状

大館国際情報学院高校 … 村岡 昇氏
角館高校 …………… 佐藤 義一氏

表彰状

十和田高校 …………… 小舘 一仁氏
能代高校 …………… 中嶋 日吉氏
大曲農業高校 …………… 橋 正幸氏
羽後高校 …………… 小野 勝氏

平成27年度 東北地区 高P連広報紙コンクール

奨励賞

秋田和洋女子高校 ゆり養護学校
本荘高校

平成27年度 高P連広報紙コンクール

平成28年1月16日、平成27年度広報紙コンクールの審査会が行われました。平成27年1月から12月末までに発行されたPTA広報紙を対象に、15校のエントリーがありました。

外部審査員の佐藤誠吾氏(秋田魁新報社)と県高P連調査広報委員が審査にあたりました。

最優秀賞、優秀賞の広報紙を東北地区コンクールに推薦。各紙は「奨励賞」を受賞しております。

また、秋田和洋女子高校、ゆり養護学校の広報紙が、千葉で行われた全国大会に展示されました。

最優秀賞

秋田和洋
女子高校

優秀賞

本荘高校
ゆり養護学校

奨励賞

秋田西高校
男鹿海洋高校
秋田高校
新屋高校
秋田商業高校
秋田明德館高校

本荘高校定時制課程
矢島高校
仁賀保高校
横手高校定時制課程
横手清陵学院高校
天王みどり学園

講評

「楽しく読んでもらうために」

秋田魁新報社デジタル戦略室長 佐藤 誠吾
(昨年度編集局制作センター長)

コンクールなので順位をつけることになりましたが、広報紙を出品された関係者には敬意を表します。人手や経費、時間をやりくりし、つくるだけでも大変なのに、評価されるなんて怖いなあ、と感じられた方も多いのではないのでしょうか。伝統的なレイアウトもあれば、意欲的な企画を展開している学校もありました。手作り感たっぷりの紙面には好感を持ちました。参加各校が他校の広報紙の個性を真剣に比較できるという意味では、まさに参加することに意義があるコンクールだと思います。

広報紙は「媒体」です。分かりやすく充実した内容を盛り込んで、読みやすく写真やレイアウトを工夫する—印刷媒体すべてに共通する基本です。それは、より多くの人に読んでもらうためです。作る側の都合ではなく、読む側に立った紙面作りが求められます。伝統的な紙面でもいいけれど、読み手を引きつける企画があれば、より楽しく読んでもらえるはずです。

このコンクールの審査基準は

- ①学校と家庭を結ぶ紙面づくり
- ②見やすく、読みやすい紙面づくり
- ③学校の現状を十分に伝達する紙面づくり

④特色ある紙面づくり(特集記事等)—となっております。審査員は各項目に点数をつけ合計点を参考に合評しました。

上位となった学校に共通するのは、写真を多用しビジュアルで読みやすく、学校の特色を捉えた特集で学校生活をリアルに伝えていた点です。最優秀の和洋は各項目で高い評価を得ました。優秀賞の本荘はすべて横組みという特色があり、ゆり養護はモノクロながらもテーマ別写真特集に工夫がありました。奨励賞の中では横手清陵のユニークな企画特集が注目されました。

広報紙づくりへの取り組み

秋田和洋女子高校 PTA広報委員長 佐藤 昭子

この度の、平成27年度秋田県高P連広報紙コンクールにおきまして、最優秀賞をいただきましてありがとうございました。さらに、平成27年度東北地区高P連広報紙コンクールでは奨励賞をいただく事ができました。かさねまして、お礼申し上げます。

今回出品した「和洋 Vol.118」は、4名の保護者を主にして、先生と快く原稿依頼を引き受けてくださった方々の協力で完成する事ができました。

和洋高校では、広報委員全員で年3回発行してきましたが、27年度は人数にも恵まれたため、3つのグループに分けそれぞれリーダーを決めて作業しました。それにより、少人数で行う事の3つのメリットがありました。

1つめは、大勢の中では中々発言できない方も積極的に意見を言う事ができました。それにより、子供と親の両方が興味を持てる内容となりました。

2つめは、作業効率アップです。少人数のため、集まる日をスムーズに決めることができました。

3つめは、次は何をするか何を決めるのかを事前にメールで流す事で、集まってから話し合うのではなく、それぞれ持ち寄った内容を決定していったため時間短縮と集まる回数短縮につながりました。

広報委員は負担の多い委員会ですので、参加率も低く限られた方々で活動してきたのが現状でした。が、メールでのやりとりを密にし「いつまで」「何を」を明確にして事前に準備する事で、結果的に良いものが作れたと思っています。1年生の保護者は特に、何も分からないからと不安に思い緊張される方が多いです。そのような不安を解消するには、メールはひとつの良い手段だったと思いました。

平成28年度秋田県高P連「広報紙コンクール」募集

- 1.対 象 平成28年1月から12月までに発行されたPTA広報紙の中の1紙。
(平成27年度のものでも期間内であれば可)
- 2.募集期間 平成28年11月～平成29年1月中旬
- 3.そ.の.他 詳細については、後日各学校PTAに案内する。

平成28年度「広報紙編集研修会」の開催

- 1.日 時 平成28年9月21日(水) 14:00～16:00
- 2.会 場 さきがけホール 秋田魁新報社1F
- 3.講 師 秋田魁新報社編集局制作センター長
藤原 謙 氏
- 4.内 容 魅力的な広報紙に向けて

第1回合同委員会開催される

今年度第1回合同委員会は、6月18日(土)秋田市の大町ビルにて開催されました。全県の高校・支援学校PTA会長が一堂に会し、所属する委員会での初顔合わせです。多くの方が初対面にもかかわらず、そこは学校を代表するPTA会長の皆さん、すぐに意気投合。各委員会では活発な話し合いがもたれました。取り組みについて、委員長からのメッセージを次に載せております。各学校PTA活動を支援すべく委員会活動に取り組んでいきますので、ご理解・ご協力よろしくお願いします。

総務委員会

総務委員長 渡部 羊三



総務委員会では、例年通り連合会の各会合のスムーズな運営を行うとともに、委員会独自の活動として①18歳選挙権の法律施行に伴い家庭での情報共有に関する活動②インクルージョン教育に関する調査研究③貧困問題に関する調査研究の3点を取り組むことになりました。本来の総務委員会の活動を確実に遂行するとともに、現在高校生を取り巻く環境を鑑み、他の委員会で取り上げられていない課題について柔軟に対応していく所存です。取り組む課題は難しいものですが、しっかりと情報共有できるよう努力いたします。

健全育成委員会

健全育成委員長 木村 昌永



健全育成委員会は、子ども達の元気や勇気や可能性を最も感じることができる委員会です。学校・家庭・地域との結びつきを大切に、今年度も責任感と子ども達への愛情を持って、一生懸命取り組みたいと思います。

具体的な活動方針と致しましては、①近隣高校や地域と連携して、より広域的な「登校一声運動・マナーアップ運動」の実施。②自転車事故増加に対する交通安全の推進。③インターネットセーフティを理解する研修の開催。であります。

今年度も皆様のご協力をよろしくお願い致します。

進路対策委員会

進路対策委員長 高久 臣平



私たちのふるさと秋田県は、少子高齢化や若年層の県外への流出より2040年に人口が現状の三分の二にあたる70万人に激減と言われていています。都市圏への進学や、他県への就職により各職種において人手不足の状況です。しかし、高校生の皆さんの地元に残りたい、帰って来たいという意識は年々高まってきています。高校教育の中で、自己実現の価値観を考えられる環境をつくり、「地元で幸せに暮らす」という豊かさを選択肢の一つにできる高校生を育てることが進路対策委員会の使命と考えます。皆さんで力を合わせ頑張って参りましょう。



調査広報委員会

調査広報委員長 石嶋 勝比古



調査広報委員会では、年2回発行の「会報づくり」や「広報紙コンクール」を実施しています。また、広報の編集技量を向上させるため編集のプロを講師に招き「広報紙編集研修会」も開催しています。これらの取り組みについては、マンネリ化しないよう知恵を絞り鋭意改善に努めます。

さらに、全国高P連では「高等学校PTA活動に関する調査研究」を事業目的の一つに掲げ、今年度から「調査統計システム」の運用を開始しております。この目的に沿い、秋田県高P連としても調査統計システムをどの様に活用できるか検討し、調査活動の分野にも取り組んで参ります。

母親委員会

母親委員長 山信田 勢津子



母親会員交流会は、全県から高校生をもつ母親が集い、家庭や地域の教育力を高めるための母親の役割とPTA活動のあり方を話し合うという趣旨のもと継続され、今年29回目を迎えようとしています。今年度は「あきらめない心、分かち合う心、強く生きること」をテーマに、共に学び合い、語り合いながら充実した時間を共有していきたいと思っています。教育とは子どもに願いをかけ、その願いを実現していくためのプロセスであるという方がいました。この交流会が、母親としての士気を高め、家庭教育の確立につながるものであってほしいと願っています。



総務委員会



調査広報委員会



健全育成委員会



進路対策委員会

学校紹介

秋田県立大館桂桜高等学校



大館桂高等学校、大館工業高等学校、大館高等学校の3校が統合し、平成28年4月に開校しました。三校の伝統を引き継ぎつつ、ふるさと秋田の発展に貢献できる人間となるべく総勢752名の生徒が学業にいそしんでいます。1年次は普通・生活科学科、機械科、電気科、土木・建築科、2年次からはさらに5学科10コースに分かれ、多種多様な進路希望をかなえるため、より専門的、発展的に学んでいます。

PTA活動では、総務部、健全育成部、進路対策部、調査研修部、母親部の5つの専門部会を設け、様々な活動を行っています。特に、進路対策部と学校の進路指導部とが連携して夏休みから行っている就職希望者への「PTA模擬面接」は、本番さながらの緊張感で、生徒にとってとてもよい練習機会になっています。

初年度でもありまだまだ課題もありますが、より多くの保護者や地域の方々とさらなる連携を目指して活動しています。

周年学校

創立100周年

秋田県立小坂高等学校



大正5年、小坂町立小坂実科高等女学校として誕生しました。その後、昭和23年に小坂新制高等学校を経て町立より県立に移管して、秋田県立小坂高等学校となりました。

昭和53年には、現在の校舎に移転し、今年で創立100周年を迎えます。

本校は、環境技術科と普通科の2学科からなり、それぞれ「環境に配慮したものづくりができる人材の育成」、「進路に応じた科目選択をして将来への展望を具体化、そして希望の進路を実現」を目標としています。

今年度は、100周年記念行事として、1ー学習発表会、2ー演劇鑑賞会、3ー町民交流パークゴルフ体験、4ー小坂七夕全校参加、5ー講演会、6ーCD作成等々を実施・予定しています。

創立90周年

秋田県立花輪高等学校



大正15年、花輪町立花輪実科高等女学校として創立され、昭和3年に県立花輪高等女学校、昭和23年には学制改革により男女共学の県立花輪高等学校となり、平成28年に創立90周年を迎える。

全日制普通科で、1学年4学級、全校生徒は422名である。

校訓「誠実」「友和」「創造」「英気」の下、自ら考え 判断し主体的に行動する「花高生」を目指し、アクティブラーニングの視点で授業改善を推進している。

文武両道を掲げ、生徒の約80%が進学している。部活動では、スキー部、陸上競技部等が全国の舞台で活躍している。

創立90周年

秋田県立矢島高等学校



大正15年、矢島町立農業補習学校農業専修科として設立し、昭和23年6月秋田県立矢島高等学校(定時制)となる。昭和26年4月に全日制課程として農業科、家庭科、普通科を設置し、昭和34年には本県唯一の酪農科を設置する。その後、幾度かの学科再編を経て普通科のみとなる。平成21年4月全国でも類を見ない、由利本荘市立矢島中学校との一体型校舎を新設し、中高連携校としてスタートする。現在、普通科2クラス、全校で6クラスの小規模校であるが、その特徴を生かした生徒一人ひとりに向き合ったきめ細かな教育活動を展開している。90周年記念事業として、9月13日(火)にわらび座による「風の又三郎」公演、10月15日(土)に記念式典、元矢島町助役の吉川浩民氏による記念講演、生徒によるアトラクション「坂之下番楽」を予定している。

これからの行事ご案内

県北地区交流大会

- ◆期 日 10月6日(木)
- ◆会 場 旧料亭「金勇」(国登録有形文化財)
- ◆研究主題 「地域とともに生きていくために」
～現状認識と魅力再発見～
- ◆内 容
 - (1)講 話 「地域でともに支える～つながりを考える～」
講 師 藤里町社会福祉協議会 会長 菊池 まゆみ 氏
 - (2)施設見学(50分程度、2班に分かれて)
 - (3)教育懇談会

中央地区交流大会

- ◆期 日 10月28日(金)
- ◆会 場 秋田ビューホテル
- ◆研究主題 「地域と連携したキャリア教育のために今、PTAは」
～秋田をより鮮やかに、より元気に～
- ◆内 容
 - 講 演Ⅰ 演 題 「秋田をより鮮やかに」
講 師 むつみ造園土木(株) 会長 佐々木 吉和 氏
 - 講 演Ⅱ 演 題 「秋田をより元気に」
講 師 ノーザンビネッツ代表取締役 社長 水野 勇気 氏
 - パ ネ ル 討 論 会 コーディネーター 荒谷 紘毅 氏
(NPO法人秋田移住定住総支援センター理事長 他)

県南地区交流大会

- ◆期 日 9月30日(金)
- ◆会 場 湯沢グランドホテル
- ◆研究主題 「地域を担う子どもたちを育てるPTA活動」
- ◆内 容
 - 講 演 演 題 「ジオパークでゆざわを元気に！」
講 師 湯沢市ジオパーク推進協議会専門員 山崎 由貴子 氏
 - 第1分科会 「高校生の地域社会貢献を支えるPTA活動の在り方」
 - 第2分科会 「地域社会の安全・安心を守るためにできること」
 - 第3分科会 「子どもの進路実現のための家庭の役割」

母親会員交流会

- ◆期 日 9月14日(水)
- ◆会 場 秋田県生涯学習センター
- ◆研究主題 「あきらめない心、分かち合う心、強く生きること」
- ◆内 容
 - (1)講 演
講 師 シンガーソングライター 板橋 かずゆき 氏
 - (2)グループ別討議

全県PTA担当教諭会議

- ◆期 日 10月13日(木)
- ◆会 場 秋田県生涯学習センター
- ◆内 容
 - (1)平成28年度高P連事業中間報告
 - (2)平成29年度の取組について

第2回合同委員会

- ◆期 日 10月22日(土)
- ◆会 場 秋田県生涯学習センター
- ◆内 容
 - (1)講 話
講 師 教育庁保健体育課副主幹 伊藤 一彦 氏
 - (2)各委員会活動中間総括

教育懇談会

- ◆期 日 11月16日(水)
- ◆会 場 秋田県生涯学習センター
- ◆内 容 県教育委員会との教育懇談

全県正副会長会議

- ◆期 日 平成29年1月28日(土)
- ◆会 場 秋田市・大町ビル
- ◆内 容
 - (1)平成28年度事業報告
 - (2)平成29年度活動方針等



選挙権年齢 18歳以上への引き下げ

昨年6月17日選挙権年齢が18歳以上に引き下げられる法律が成立し、今年7月10日の参議院議員選挙で18歳選挙権が初めて適用されました。

国や社会の問題を自分の問題としてとらえ、自ら考え判断し、行動できる力を身に付けるべく主権者教育、シチズンシップ教育の充実が求められています。「私たちが拓く日本の未来」という副読本が全国の高校生全員に配布され、各校では指導がなされているところですが、私たち保護者も現状と課題を知り、出来る範囲で子どもとかかわっていく必要があるのではないのでしょうか。

以下は、平成27年10月4日(日)京都で行われた全国高P連全国会長・事務局長研修会における講演の一部です。講師は、秋田県潟上市ご出身の東京大学大学院教育学研究科 小玉重夫教授。

講演記録は、全国高等学校PTA連合会ホームページの「全国高P連会報(第83号)」に掲載されています。講演記録だけでなく、様々な情報があります。是非ご覧ください。

URL <http://www.zenkoupren.org/>

(講演の一部)

政治的リテラシーの本質は、争点を知り判断できるということにあります。これを学ぶためには単に知識を学ぶだけではなく、生徒自身が能動的にアクティブに学習する、いわゆるアクティブラーニング、能動的な学習が目玉になります。

(中略)

政治を学ぶことがアクティブラーニングの契機になって、世の中のことを広く知ろうとする。政治というのは学習と対立するものではなくて、むしろそれは相補い合うもの、そのものであると言って過言ではないでしょう。

新しい時代に、高校生が政治というものを実際に参加しながら学んでいく。未来の主権者に実際に主権を行使し、政治に参加する中で政治を学んでいくという精神を根幹に据えて、学校現場における政治というものを考えるということが必要なのだと思います。

編集後記

6月に新体制がスタートして早くも3ヶ月。日中は残暑に見舞われしも、夜は虫の声に初秋を感じる季節となりました。

会報118号の発行に際し、ご多忙中にも関わらずご寄稿いただきました皆様に御礼申し上げます。

今号では、定時総会や東北大会などのご挨拶や発表をもとに、次世代を担う子どもの夢の実現のためのPTA活動に寄せる思いや期待をお届け出来ればと編集に当たりました。

これからも会報にて情報発信に努めてまいりますのでよろしくお願い致します。

調査広報委員 庄司 嘉政(矢島高校)